



発行所
 十勝毎日新聞社
©十勝毎日新聞社 2004
 〒080-8688
 帯広市東1条南8丁目
 TEL(代表)0155-22-2121
 編集局 0155-22-2121
 広告局 0155-23-2323
 販売局 0155-24-2222
 事業局 0155-22-7555
 総務局 0155-24-2299
 広尾支局 01558-2-4111
 池田支局 01557-2-2367
 本別支局 01562-2-2618
 新得支局 01566-4-5524
 札幌支社 011-261-2161
 東京支社 03-3544-1365

プロペラ動力で離着陸

大樹・多目的航空公園
定点滞空飛行準備進む



【大樹】国が計画する無人飛行船による通信放送・地球観測システム成層圏プラットフォーム計画の研究開発を行う独立行政法人宇宙航空研究開発機構などは29日早朝、大樹町多目的航空公園で定常試験用飛行船(全長88メートル)のプロペラ動力による初の離着陸実験を行った。試験は12月上旬ごろまで実施され、最終的には上空4千メートルまで浮上、機体の姿勢制御や

通信・放送機能などを確認する。同計画では、高度約20キロの成層圏に全長250メートルの無人飛行船を千数機浮かべ、人工衛星のような役割を果たすことを目指す。

この日は地上クルー約30人が参加。飛行船を離陸用ハンドリングエリアへ移動し、午前6時ごろ、遠隔操作で船底にあるプロペラ2つを動力源として約10分浮上させた。船体突端部にひもを付けたまま、プロペラの推進力をテスト。15分ほどの間に同様の離着陸実験を数回繰り返した。

予定していた「場周飛行」は風の影響で実施されなかったが、関係者は「実験結果を分析し、来月早々にも本格的な飛行試験に取り組みたい」と話している。(松村智裕)

初めてプロペラによる浮上実験を行った全長68メートルの無人飛行船